



## いきものログとは？

<http://ikilog.biodic.go.jp>

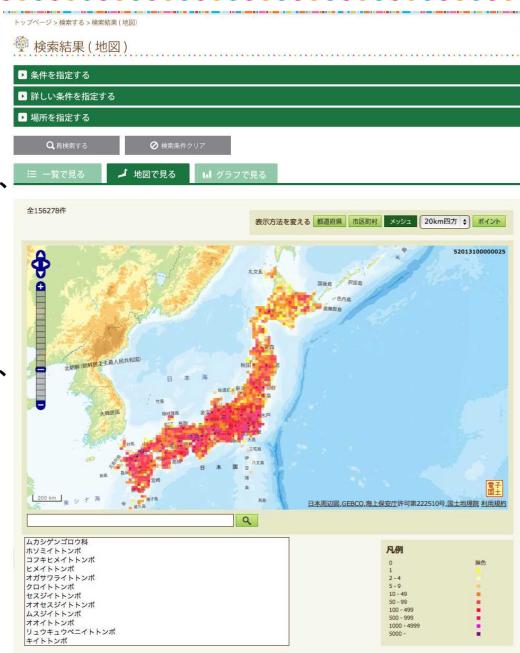


環境省が管理している生物調査データのほか、地方自治体や専門家、市民など、全国の様々な団体や個人が管理するデータを登録して共有化し提供するウェブシステムである。また、「いきものログ」では様々な主体が市民参加型調査を実施することができる。

「いきものログ」は様々な主体がそれぞれに管理してきた生物情報を統合し共有化すると共に、身近な自然に目を向け、生物多様性の重要性について考えるための情報交流の場となることを目指している。センターでは今後「いきものログ」をわが国の生物多様性データを総合的に管理する基幹システムとして位置づける。

## 生物多様性データの共有化

「いきものログ」運用の主眼の一つは、様々な団体や個人が別々に管理している



## いまものログを利用した市民参加型調査の実施



しおかぜ自然環境調査は、「いきものログ」の機能の一つである市民参加型調査の機能を利  
用し、東日本大震災の生物への影響を把握するための市民参加型調査である。

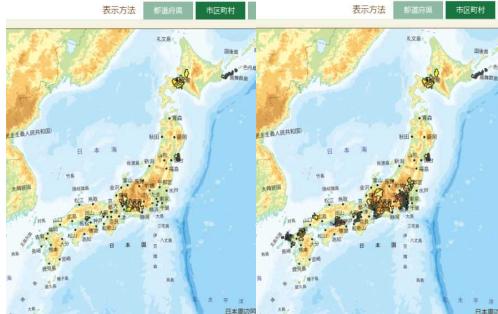
しおかぜ自然環境調査では対象種15種が設定されており、写真と名前、見つけた日付と場所を「いきものログ」に投稿することで、ウェブ上に「生きもの地図」が作られる。投稿に必要な情報があれば震災前の生物情報の投稿も受け付けており、震災影響があったと考えられる地域を中心に、調査範囲を広く全国とすることで、震災影響を把握するとともに、調査対象種の全国的な変化状況についても情報の蓄積が可能である。

蓄積された情報は、しおかぜ自然環境調査の調査ページで検索・閲覧することができるほか、「いきものログ」に蓄積されている生物情報とともに検索することができ、生物情報の確認年月を絞り込むことで震災前後の生物情報を比較することが可能である。



## 市民参加型調査機能の活用提案

「いきものログ」の市民参加型調査の機能を活用すれば、環境省だけでなく、その他の国の機関・都道府県・市区町村・研究機関・専門家・市民等が独自に市民参加型調査を実施することができる。「いきものログ」では専門家や愛好家等ある特定のグループ構成員のみによる調査を実施することも可能であり、実施者は独自にカスタマイズできる調査ページを「いきものログ」内に設置することができる。この機能を活用すれば、広く調査への参加を呼びかけられるのはもちろんのこと、調査結果と「いきものログ」に登録済みのデータとを比較することで、調査対象種の分布の変遷を追うことも可能である。それらの結果は外来種防除等の施策に役立てることが期待されるほか、自治体が行う生物調査のツールとしての活用も期待される。



アライグマを例に、2000年以前と、2000年以降を含むデータを比較すると、アライグマの確認された市区町村が拡大していることがわかる。